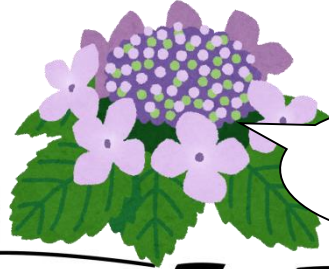


過ごし方のヒント

2020. 6. 8



慣れるまで
無理しない…

1 宿題はできる範囲で

お子様によっては、宿題に時間がかかり、できるまで長時間、頑張っているご家庭もあると思います。いつも、ありがとうございます。

でも、しばらくは、途中になっても構いません。睡眠時間をしっかり取ることを、大切にしてください。担任の先生方も、できる範囲で、ゆっくり日常の学校にもどしていこうと話合っ、共通理解しています。きつく注意される心配は、ありません。

連絡帳に、「できるだけがんばりました。」「分かるところを選んでしました。」など、一言お知らせください。そうすると、全部できていなくても、注意するどころか、がんばったことを認めたり褒めてあげたりすることができます。学校と家庭との相乗効果でやる気が育ちます。

— 学校が始まりました —

学校が再開して一週間が経ちました。私たち教職員も、静かだった校舎までが「みんな登校してくれてありがとう！」と言いたい（まるで言っているような）気持ちでいっぱいです。やはり、学校は子どもが主人公です。でも、今はまだ、始まったばかり。慣らし運転が必要です。大人が考えている以上に、みんな疲れきってお家に帰っていますので、ゆっくり休んでエネルギーを充電することを最優先にしてあげてください。

2 オウムになって

オウム（鳥）は、人間のことばを上手に繰り返しますね。これは、子育てに生かすことができます。お子様が「今日、楽しかったんだよ。」と話しかけてきたら、「そう、楽しかったのね。」（できれば笑顔で、無理なら普通に）と、オウムの如く、ただし、穏やかに返してあげてください。「今日、つらいことがあった。」なら「そう、つらいことがあったのね。」（お子様の表情に合わせて）と。すると、自然に「〇〇したんだよ。楽しかった。（△△がつかった）」と話したくなりますね。そこから、会話が続きます。

お子様が話題にしたことに本気で興味をもつと、聞きたいことはたくさん出てくるし、子どもたちは山のように話し始めます。大人が聞きたいことだけを話してもらおうとすると、口をつぐんでしまいます。学校のことを聞きたいときは、今日のおやつの話からオウムになって、会話を始めてください。知らぬ間に学校の話も出てきますよ。

すぐには難しいかもしれませんが、一週間ぐらいは練習するつもりで、続けてくださいね。

3 大人も無理しないで

仕事で疲れ切って帰宅したとき、お子様の話を聞いてあげたくても、「ちょっと休ませてー」と思うのは、とても自然なこと。そんな時は、「仕事で疲れちゃったから10分休むから待ってね。でも、あなたの話は楽しみよ。」と伝えるだけで待つことができる子はたくさんいます。上手に伝えて、待ってもらいましょう。

